

「強い気持ちを持って」

小山市立旭小学校3年

慶野 葵



わたしは、オリンピックが大好きです。オリンピックで、たくさんの人が活やくするすがたに、とてもかん動します。かん動して、ないてしまう事もあるし、立ち上がって、はく手してしまいう事もあります。いろいろなきょうぎが見られる事も楽しいです。

わたしは、とくに、マラソンを見る事が好きです。自分で走るのには、手が早く走れないのですが、マラソンせん手が、真夏の暑さの中を、二時間以上、走りつづけるのは、男子も、女子もすごいです。強い気持ちです。歯をくいしばって、全力で走るせん手に、まけるな、走れ、がんばれと、走っていないわたしも、力が入ってしまいます。わたしが生まれた二〇〇〇年のシドニーオ

リンピックで金メダルをとった、高はしなお子せん手は、かがやいていました。つらくても、つらくても、一生けんめい前に進む事が、できたからです。強い気持ちがあるからです。

学校の道とくの時間に、高はしなお子せん手の、小学校の時のマラソン大会の事を学びました。なお子せん手は、くつがぬげて、ふみつけられ、けとばされても、転んで、ひざを、すりむいても、まけないで、気持ちがおれてしまう事もなく、大ききなかけっこだもの、走らなくちゃ。まけるなんて、ゆるせない。ぜったいにかつてみせる、と立ち上がったそうです。わたしはそれを読んで、すごいな、強い気持ちがあるなと思いました。

わたしは、小学校一年生のマラソン大会の時、強い気持ちで、持てずにいました。小さい時から、かるいぜんそくがあつて、マラソン大会の少し前から、ゼイゼいとむねがくるしくなっていました。大会までの、れん習までは、がんばっていたのに、大会の前の日になって、心の中に、ちよつと弱い気持ちが生まれて、だんだんに、走れないなあ、ビリに、なりたくないなあ、がんばれないなど、思ってしまった。そして当日、休んでしまいました。グラウンドのすみで、みんなの事を、見ていたら、わたしの気持ちが、だんだんつらくなりました。

本当につらかった。みんなは、つらい顔をして、ハアハア息をして、体もふらふらさせる子もいたし、何よりはんしんまひのお友だちが、がんばって、走っていました。そしてみんなが、ゴールをすると、ニコニコわらっていました。つらそうな顔をしていた子も、ビリだった子も、楽しそうに、うれしそうに、わらっていました。わたしは、みんなと、走れなかったことが、つらかった。一番は、自分に強い気持ちがないのが、つらかった。

二年生になって、わたしは、友だちと、いっしょに、校庭をマラソンした。ぜったい、一年生の時の気持ちをおすれないぞ、強い気持ちを持つとうと思いました。そして、なお子せん手のように、かがやきたいです。